

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2795000286 | | |
| 法人名 | 株式会社 コミュニティハウス・夢 | | |
| 事業所名 | グループホーム みんなの家・福ちゃん | | |
| 所在地 | 大阪府東大阪市六万寺町1丁目14-20 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年8月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年10月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター | | |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年10月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの共通理念「人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること」を掲げ共に生きる姿勢を大切にしています。私たちにできることは何か？それは地域住民の方々とネットワークを構築し、困った時には相談できる暮らしを支え合う関係を、グループホームの運営を通じて行っていきたくと思っています。みんなの家・福ちゃんでは共に支え合い、最後までその人らしさを失わないように過ごしていただきたいとの思いで、笑いの絶えない賑やかなグループホームを創っていきます。福ちゃんが大切にしている事①一日一回は大笑いする事②楽しみや喜びを共有する大きな家族になる事③プログラムのない自然な暮らし④一人ひとりの思い、やりたいこと、個人の生活リズムを尊重すること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は「人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続けること」を共通理念に掲げて、利用者が地域で穏やかに暮らし続け、地域に受け入れられるホームでありたいとの思いで、地域活動や地域との関りを大切に積極的に取り組んできた。「1日1回は大笑いする事、特にプログラムは用意せず、自分の家で過ごすように自然に過ごす。一人一人の思いや、やりたい事、個人の生活リズムを大切にします」を福ちゃんの大切な暮らしの中に取り入れたいと、管理者と職員は協議しながら実践に繋げている。利用者は日常的に散歩や買い物、畑仕事、通院、旅行に出かける人など様々で、これまで過ごしてきた生活と変わりなく暮らしている。笑いの絶えない、楽しく共に支えあう暮らし、最後までその人らしさを失わないように最期を迎えてほしいと管理者と職員は温かく誠意をもって対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 当事業所理念『人を人として尊び、共に学び共に支え合う姿勢を持ち続けること』と『共生』の姿勢、思いを職員全体が共有できるよう全体会議等で確認し、より良い介護の実践につなげている | 『人を人として尊び、共に学び、支え合う姿勢を持ち続けること』を理念としてフロアに掲示している。ホームでは「1日1回は大笑いすること。特にプログラムは用意せず、自分の家で過ごすように自然に過ごしてもらうこと。利用者のやりたい事、個人の生活リズムを大切に」を目標に、全体会議等で確認し、それを共有して実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 散歩時には近所の方と挨拶や簡単な会話を交わしている。地域の催しや包括のイベントに参加し楽しく交流している。また施設が自治会に加入しており、秋祭りの時は太鼓台がホーム前までくるので地域の青年団や子供たちと触れ合うことができる。逆に施設の催しにも参加していただいている | 自治会に加入し、回覧板は利用者と一緒に届けている。日常の散歩の時、気軽に挨拶を交わし、地域の秋祭りの時、布団太鼓は事業所の前まで来られて、地域の青年団やたくさんの子供たちにお茶の提供や記念写真撮影などで祭りを楽しんでいる。事業所の祭りや催しには多くの地域住民、子供達の参加があり、軽食やゲーム等して賑わっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 代表兼管理者が事業者連絡協議会やグループホーム協議会の運営に携わっており認知症の事例検討会への参加を要請したり広報紙等で認知症ケアについて発信している。地域の方が見学や相談に来られた時は認知症への理解や接し方について助言している | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議では施設の取り組みやサービス状況や課題の報告を行い、出席者からの意見を参考にサービス改善を行っている | 会議は2ヶ月毎に身体的拘束等の適正化委員会と合わせて開催している。ホームから利用者の現状及び活動報告や利用者の状況報告、各種の運営課題の報告があり、参加者から行事に参加した感想や会議の日程希望など双方向的な会議が実施されている。最近ではコロナ禍の影響で中止となり議事録と資料を関係者に送っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 事業所連絡会には必ず出席し、十分な連携を図っている。また事業者だけで判断に迷う時は市の高齢介護課に相談し、意見を聞きながら実践する等協力関係を築くよう取り組んでいる | 管理者は長年、事業所連絡会の役員を務めており、市職員や他事業所との連携は十分図っている。市の高齢介護課には運営や相談事があれば、指導を受けて運営に反映させている。公的援助を必要とする利用者の更新の書類提出やおむつの申請などで福祉保護課へ出向いた際、相談や新しい情報を得るなどして協力関係を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 東大阪市主催の身体拘束等の虐待研修に参加した職員が他職員に伝達研修を行う他、年2回の内部研修を実施し、意識づけを行っている。また、閉塞感を感じられないように玄関は施錠せず、センサーを設置し個々の利用者の様子に気を配り、できるだけ一緒に外に出て気分転換していただくように努めている | 身体拘束ゼロマニュアルを作り、年2回、身体拘束の内部研修と「身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を置いて運営推進会議や全体会議で話し合い周知徹底している。外部研修で身体拘束、虐待研修に参加した職員は他職員に研修内容の伝達研修を行っている。職員の意識は高く身体拘束の弊害は理解している。玄関の施錠はせず、閉塞感を与えないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 全体会議の中で身体拘束や虐待等の研修を年2回実施し、外部研修にも積極的に参加し職員に伝達研修を行うなどして虐待防止の徹底と意識向上を図っている | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会があれば参加している。また、現在当施設で日常生活自立支援事業を活用されている方があり、分からないことは色々と教えていただいている。今後も個々の必要性を関係者や職員と話し合い、活用できるように支援する | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 不明な点が残らないように契約時に重要事項説明書及び契約書の内容について利用者や家族等に十分に説明し、話し合いを行いご理解・納得していただいている。また、解約や改定の際にも利用者・家族等に不安や疑問が生じないように個々に十分な説明を行うように努めている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の生活の中で個々の利用者の思いを汲み取り対応できるように務めている。また、家族等に対しては面会来所時等の機会に意見を伺ったり、玄関に意見箱を設置し直接に話にくいような苦情や要望も把握できる機会を設けている。施設の催事後にはご家族向けのアンケートをとり今後の運営の参考にさせていただいている | 日頃の訪問、運営推進会議の参加、家族の行事参加で家族が気軽に意見や要望は言える雰囲気がある。夏祭りやクリスマス会、カラオケ大会などの後でアンケートをとっても返信率は100%。家族の貴重な意見、要望、喜びの声等はその後の運営に反映させている。コロナ禍により家族の面会自粛となってから動画や写真を撮ってラインで送るなど工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の全体会議では率直な意見が交換できる雰囲気を作っている。個々の利用者に居室担当者を作り、担当利用者の状況や実情を発表しニーズについて皆で意見を出し合い、検討し実践に結び付けている | 風通しの良い職場で、職員は毎月の全体会議で意見や提案等、自由に発言できている。居室担当制で担当の利用者の状況、実情などを発表して、意見やアドバイスなどを聞く機会となって、その後の利用者サービスの向上に反映させている。業務に関する意見や要望は全職員でしっかりと話し合い、その後の業務改善に繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 当施設は1ユニット9名のみであるが、日中は4人体制でゆとりを持って利用者に接することができるような環境を整えている。給与面では資格手当の他、能力に応じた算定を行い、働きやすい環境作りに務めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 各々に適した研修の機会を確保し、費用は会社が負担している。外部研修を受講した職員は伝達研修を行い、他の職員にも知識を広げている。また、リーダーからは全体会議中の助言や日々のケアの現場でも指導・助言がタイムリーに行われている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 東大阪市主催の事業者部会やグループホーム協会の全国セミナー等を通じ、他事業所と交流し、ネットワーク作りや勉強会を行い、サービスの向上に取り組んでいる | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 最初に施設見学をしていただき事前相談や契約の段階で本人の思い、不安、要望等を伺った上で安心していただけるサービスを提供することで信頼関係を築けるように務めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | プライバシーに配慮しながら、家族の思いに耳を傾け、できるだけ複数の家族とお話しする機会を持ち、本人の思いもくみ取りながら要望を反映し、不安を解消できるようにサービスを提供することでより良い関係づくりに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 他機関や介護支援専門員の方々からの事前情報を参考に、連絡・調整を図りながら、本人・家族等のニーズに合った対応を心がけている。また、初期のサービスにおいて本人が早く馴染み、納得して過ごすことができるよう職員間で連携をとり、支援の工夫をしている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お互いに支援する・されるの関係ではなく共に生きる姿勢を持ちながら、日々の暮らしを続けていけるような関係を築くように努めている。また利用者間で話し合いながら自主的に家事をこなして下さる雰囲気もできている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 何事も職員の判断だけでなく日常の些細な事も家族等に伝え、同じ思いを共有し絆を深め、共に支え合っている者同士としてより良い関係づくりをしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今までの生活や家族関係に配慮し、面会・外出・外泊等が気軽にできるように支援している。面会は昼夜を問わず都合の良い時に来ていただいている。また施設行事は文書でお知らせし、希望があれば家族以外の友人にも参加していただいている | 利用者の生活の過程を大切にして、家族や知人、友人との電話、手紙のやり取りの手伝いやスーパー、美容室、喫茶店などへ出かけることで、これまでの関係継続が出来るように支援している。利用者の中には家族と畑仕事に出かけたり外泊や、旅行を楽しまれている利用者もおられる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の性格や感情の変化を理解し生活の中でより良い関係を築いていけるように努めている。関わりを持つことが苦手な方やうまくコミュニケーションをとることができない方には職員が間入ることより孤立を防ぎ、利用者同士関わりを持てるように働きかけている | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 住み替えが必要になられた場合は、転居先と申し送りを行い、環境の変化による戸惑いを減らすように努めている。また、契約を終了された方にも継続して会報誌を送ったり、施設の催事等の通知をして参加していただいている。施設の現状に触れていただくことでご意見をいただけることもあり、以後も関係が続くように努めている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話・言葉・表情等を記録に残し、生活歴やアセスメントも参考にその方の思いや意向を把握できるよう努めている。直接本人に確認するのが困難な場合は家族等に伺ったり、職員間で検討している | 日頃の生活の中で利用者が何気なく話す言葉に対しても、しっかりと傾聴に努め、本人の思いを職員間で共有し支援に活かしている。困難な場合は利用者の家族やアセスメントを参考にして検討しながら対応している。「今が楽しく、今を大事に、今の暮らしを楽しんでいたらよい」という気持ちで支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に本人・家族や介護支援専門員等の関係者より可能な限り情報収集を行っている。また日々の生活や会話の中からさりげなく聞き取り、情報の補足を行っている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 把握した情報をもとに施設で生活を始められて後、ケアを行いながら一日の生活の流れの中で心身状況・残存能力等について各々の職員が観察を行い、月1回の全体会議の場等において職員間で情報を共有して現状把握に務めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 施設でのより良い生活のために今行っている援助内容が適切かどうかを全体会議等で検討し、より適した援助に変更している。また、家族には来訪時や電話で要望等意見を伺い、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画作成は本人にとって必要なサービスが出来るように、本人、家族からの意見、要望を聞き取り、アセスメントシートを基に介護記録・介護計画、管理日誌、申し送りノート等を参考にして全体会議で支援内容を検討して、長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成する。モニタリングは随時行っている。状態の変化には即対応して新しい介護計画作成につなげている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入所時には通常の個別記録以外に初期観察記録をつけ、申し送りや連絡ノートを活用し個々の情報を共有している。気づきや工夫等を個別記録に残し、職員の誰もが状態把握できるようにし、全体会議等で検討し実践や介護計画の見直しにいかしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個々の状況でその時々ニーズに合わせて対応している。希望者にはできる範囲で外食や買い物等の外出に同行。家族の宿泊や食事にも必要に応じて対応している。看取りの際は最後の時間を共に過ごされ職員と一緒に看取っていただくことも可能である | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 施設の催事にはお世話になっている関係者や地域の方々も参加して下さっている。地域の秋祭りでは太鼓台が施設前に立ち寄って下さるので、利用者が住民や子供たちに茶菓を配ったりして触れ合う機会もあり、包括や老人センター主催の手芸教室や他事業所の催事にも参加する等、地域資源を活用し心身の活性化に努めている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 施設には24時間医療連携の協力医院があり、病気の早期発見に努め、必要に応じて担当医からの紹介状で専門病院を受診できるよう支援している。但しかかりつけ医の選択は自由であり、入所前からの病院に通院されることも可能である | 利用者は従来のかかりつけ医または施設の協力医を選択可能である。現在は全員が協力医の月2回の訪問診療を受診している。施設の看護師が、週2回利用者の体調管理や職員からの報告と相談に対応している。さらに協力医の看護師とも契約し、24時間対応の体制を敷いている。歯科は必要に応じて職員が支援し近隣の医院で治療を受けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設の看護師が週2回体調管理を行い、職員からの日々の状態報告や相談を受け、処置や指示を行っている。また急ぎの相談や指示が必要な時は協力医院の看護師に連絡し、指示を受け、場合によって診察や処置が受けられるように支援している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時は情報提供を行い、入院中も頻回に訪問し医師や看護師等と情報交換や相談に努めている。退院時は現在の状況と施設での今後のケアにおける注意点等を確認し、協力医院とも情報を共有しスムーズに元の生活に戻れるように支援している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づき、入所契約時に説明し、希望される方には署名、押印をいただいている。終末期を迎えた段階で看取りケア会議を行い、関係者でケアの範囲を確認し、家族同意のもとでチームケアを行っている | 重度化対応・終末期ケア対応指針に基づき入居時に、本人と家族等に説明を行い同意書を取り付けている。終末期を迎えた段階では関係者による看取りケア会議を行い、都度看取り介護計画に家族等の同意を取り付けている。看取り後は施設でデス・カンファレンスを開き、看取りケアの総括を行っている。開設後、5例の看取りがある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い実践力を見につけている | 定期的に研修や訓練を行い、いざという時に慌てないように実践力を身につけるよう努めているが、今年はコロナの影響でできていない部分がある。夜間の災害時については3年前、夜間に避難勧告が発令された時の経験で見えた課題も踏まえて、全体会議の場で再度確認を行っている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ①消防署指導:火災発生時の対応・通報の方法・避難訓練の実施(夜間に関しては会議の場で災害を想定して検討) ②防災設備会社:消火訓練・設備点検 ③防災グッズや非常食は地下と2階に分散して常備している | 毎年、防災避難訓練を実施(消防署立会と夜間火災を想定した日中訓練の2回)している。2017年台風時の地域避難所の受入体勢の不備や翌年の大雨による夜間の避難勧告時の経験も踏まえ、避難場所を同法人の隣接サービス2階とすることを全体会議で決め、職員に再確認を行った。備蓄は、食料、飲料水、介護品や寝具を地下と2階の2ヶ所に分散し保管している。 | 必要な防犯・防災設備の整備や設置はしているが、夜間の職員体制は手薄であり、職員だけの誘導の限界を踏まえ、普段から近隣住民と一緒に訓練を行うなどして、相互防災の協力体制を構築し、防災対策の充実強化に取り組むことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 援助が必要な時も本人の気持ちを尊重し、さりげなく介助するように心がけている。そのため全体会議では個々の事例を検討し、リーダーからの助言を受けたり、誇りやプライバシーを尊重した対応を具体的に確認している | 管理者は、常々職員に、自分がされて嫌なことは他人にもしない、支援が必要な時には相手の気持ちを尊重し、さりげなく介助するようにと伝えている。呼びかけも利用者や家族等が不快でない言葉を使っている。利用者への対応は、全体会議で事例検討しているほか、日常ケアの場面でも職員がお互いに気づいた事を言える良い職場の雰囲気が作られている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の会話の中で本人の思いや希望が表出できるような声かけや働きかけを行い、表情等で思いを感じ取れるよう努めている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | プログラムは特に作らず、個々の利用者の気持ちや希望を把握し、できる限り一人ひとりのペースで一日を過ごしていただいている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で選んだ洋服を着ていただき、自己決定が困難な場合は職員がピックアップした中から選んでいただくように支援している。ヘアカットは本人の要望にそうように美容師がたずねて施術している。また、月1回ボランティアによるフェイシャルマッサージとメイクを受けられる機会を設けている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 節句や祝日等には手作りの箱弁を用意したり、誕生日には本人の好物メニューを加えている。お好み焼きや巻きずし等は皆で作ったり、調理や盛り付け・後片付けは日常的に手伝っていただいている。食事は職員も一緒に食卓を囲み、敷地内にてできる苺・枇杷・キウイ等はデザートとして皆で楽しんでいただいている | 食材は生協から週1回取り寄せ、週末に野菜等が不足すれば近隣のスーパーで購入して、専任のパート職員のほか介護職員が交代で調理している。調理、盛付、後片づけには利用者の協力が常にある。行事食は手作りの箱弁、誕生日には本人の好物を一品追加するなど工夫をこらしている。食事は、食事介助の職員も一緒に食卓を囲み、同じ食事を楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養のバランスを考えて手作りの料理を提供し、個々の食事量を把握している。必要に応じて食事形態を工夫し刻み・ブレンダー・トロミ食等で提供、水分はこまめに摂取していただくようにしている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々の能力に応じて、声かけ・誘導を行い口腔ケアを支援しているが、困難な方には職員が毎食後介助するようにしている | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレでの排泄を原則として、個々の排せつパターンを把握し、声かけ・誘導を行い、ADLに応じて見守りや介助を行っている。タイミングが合わない事もあるが、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄できている | 昼夜を問わず、原則トイレで排泄している。個々の排泄パターンに沿い、職員が声かけと誘導をしている。日中はリハビリパンツ使用が7名と多く、布パンツとオムツが各1名である。夜間は、利用者2名を見回り声かけと誘導をしている。排便対策としては朝食に野菜、果物、ヨーグルト等を多く取り、便秘対策としては、牛乳、腹部マッサージや薬を利用している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝食の献立には毎朝ヨーグルトや果物を提供している。食事は野菜中心になるべく多くの種類の食材を使ってバランスの良い献立を提供している。便秘症の方には朝に冷たい牛乳を飲んでいただいたり水分摂取を強化している。加えて運動や腹部マッサージを実施し、薬だけに頼らない工夫をしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴が好きな方には定期入浴日以外でもできるだけ希望に合わせて入浴やシャワーをしていただけるように務めている。希望により個々に好みのシャンプーやコンディショナーを使用していただくこともできる | 入浴は週3回、主に午後の時間を利用しているが、利用者の希望に柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には各職員がノウハウを活かし誘導に努めている。浴槽は2方向介助対応の大きめの浴槽で、リフト入浴ができる設備も備えている。利用者の皮膚乾燥防止のため入浴剤を使用しており効果がある。シャンプーやリンスは施設で用意しているが、好みのもを使用する利用者もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は個々の居室やリビングのソファやリクライニングチェアで自由に過ごしていただいている。夜間は定期的に訪室して室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は薬剤師の管理指導のもと服薬内容を把握し、病状の変化を確認し、医師に報告・相談等を行い各々に適切な服薬支援を行っている。特に便秘薬は排便状況を把握し、医師の指導のもと調整している。また、薬は本人の名前と服用時間を確認しながら服用していただくことで誤薬を防止できるように努めている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の能力に応じ、掃除や洗濯物干し・たたみ、食事の盛り付け・後片付け、食器拭き等の役割を担っていただいている。またリビングで一緒にゲームに興じたり、個々にパズルや貼り絵をされる時は材料の準備や助言等の支援をしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い時は外気浴や散歩に出かけている。今年は感染症による外出自粛のため実現ができなかったが、概ね月1回の外食、年1回の美術館絵画鑑賞の他、初詣やお花見等の外出機会を作って普段とは違う雰囲気味わえるよう支援している。本人の希望でご家族の協力のもと農作業を楽しんでおられる利用者もある | 現在コロナ禍のため利用者の外出や散歩は自粛しているが、従来は、ほぼ毎月回転寿司や和食レストラン等に出かけるほか、毎年美術館での絵画鑑賞、初詣、お花見等が定番行事であった。現在は玄関外での外気浴、花やプランター果物への水やり、施設周辺の小散歩や家族支援で農作業に出掛ける利用者もおられる。コロナ禍の早期終息が待たれる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 中には少額の現金を手元に持って、買い物外出の際に好きな物を買われる方もおられるが、基本的には施設が家族からお小遣いを預かり金銭管理を行っており、求めに応じて金銭出納帳を提示している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望に応じて職員が取り次ぎ電話をかけていただいている。手紙のやり取り等は希望があれば投函できるように支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下には金魚の水槽、リビングには花を飾り、玄関扉はなるべく開け放して自然の風を取り込む等季節を感じる工夫をしている。リビングは天窓から光を採り入れ、床暖房完備、浴室エアコンを導入、トイレには季節によりヒーター、扇風機を設置し温度差解消に努めている。また施設内は清潔保持を心がけ快適に過ごせる工夫をしている | 築8年の平屋でメンテナンスが良いせいか、今もなお清潔で美しい。開放された玄関は網戸を通し風が入り、外の気配も良く分かり閉塞感を感じさせない。共用部の壁には行事での楽しそうな写真が何枚も切り貼りされ、家族も親の姿を見つける喜びがある。さらに、ぬいぐるみや水槽の金魚が癒しを感じさせる。共用部分の床暖房、浴室のエアコン、トイレの扇風機やヒーターの設置は、利用者の体に優しい。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングにはソファやリクライニングチェアを置き、個々に一番落ち着く場所、居心地のよい場所で自由に過ごしていただけるように務めている。また会話が自由できるようにテーブルの向かいどうしても声が届く距離にあり、席の移動も自由である | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と相談し、本人が自宅で使用していた家具等を持って来ていただいたり、住み慣れた部屋の雰囲気に近い家具の配置等を工夫している。また和室と洋間があり、たみで生活されていた方にはできるだけ和室を使用していただいている | 居室は、洋室と和室(3室)があり、それぞれにエアコン、防炎カーテンやナースコールが予め設置され、介護ベッドはレンタルできる。その他は自宅で使い慣れた家具類や思い出の写真や飾りを持ち込んだり、面会時に家族が即興で描いた故郷の山のスケッチなどを飾るなど、利用者はそれぞれ個性ある自分の部屋を作り、快適な暮らしを楽しんでいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々のできることを把握し、行動を見守り、日々の暮らしの中で日常生活動作が維持できるように働きかけ、且安全に過ごしていただけるように工夫している | | |